

普及項目	増殖
漁業種類等	なまこ漁業
対象魚種	マナマコ
対象海域	日本海中部

## マナマコ種苗生産体制の構築

北海道後志総合振興局

後志地区水産技術普及指導所（那須俊宏）

### 【背景・目的・目標（指標）】

担当区におけるマナマコ漁獲量は平成18年の151トンをピークに27年まで比較的安定していたが、令和2年には約50トンとなるなど資源は減少傾向にある（図1）。各漁業協同組合では種苗放流等の資源増殖に取り組んだが、放流効果の把握が困難なほか、購入経費等の負担が大きいことを背景に独自に種苗生産を試みる動きがあり、当所に普及要望が寄せられたため、現地における種苗生産体制の構築を目的として種苗生産技術指導を行った。

### 【普及の内容・特徴】

余市郡漁業協同組合は着底稚仔、小樽市漁業協同組合（以下、小樽市漁協）は2mm種苗、東しゃこたん漁業協同組合余別地区（以下、東しゃこたん漁協）では受精卵放流など各組織によって生産するステージが異なるため、これらに対応した技術指導を行った。また、令和3年度には効率的に採卵するため雌雄判別や成熟度調査による採卵適期の把握など地区ごとの知見を得ながら進めた（図2, 3）ほか、将来的な技術移転へ向け多くの漁業者が参加するよう体制の整備を意識しながら普及活動を行った。

### 【成果・活用】

従来、採卵日の設定は生殖腺発達状況の観察や時期的な判断により行われてきたが、令和3年度の活動により各地区の採卵適期が把握されるなど、調査結果に基づく客観的な指標を得ることができた。これにより適期採卵を行えるようになり、安定した採卵が期待される。また、小樽市漁協では忍路地区で実施した追跡調査の結果から地場産種苗の生残および成長を確認することができた。この結果、地区独自に種苗生産に取り組むなど意欲的な活動が進められている（図4）。このほか、平成30年には「小樽地区マナマコ種苗生産作業工程表」を作成し（図5）、将来的な技術移転へ向けた普及指導を行っている。

### 【達成度自己評価】

- 5 十分に達成され、目標（指標）を上回る成果が得られた（101%以上）
- 4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100%）
- ③ おおむね達成できたが、取組に改善を要する等の課題も見られた（51～75%）
- 2 かなりの部分で目標（指標）は達成できなかった（26～50%）
- 1 取組が不十分であり、目標（指標）はほとんど達成できなかった（25%以下）

### 【その他】

小樽市漁協では慣れによる「技術の劣化」が見受けられるほか、東しゃこたん漁協では風時化の都合により採卵日が定まらないなど体制整備への問題が顕在化している。

受精卵放流や着底稚仔放流は効果が不透明な部分も多く、目に見える成果が得られなければ活動意欲の低下を招くなどの問題も懸念される。このため、日常の普及活動において漁業者とのコミュニケーションを図り、限られた漁業資源を持続的に利用するための「手法の一つ」として種苗生産活動があることを周知するなど、各地域の状況に応じた種苗生産体制の構築を意識した活動が重要である。

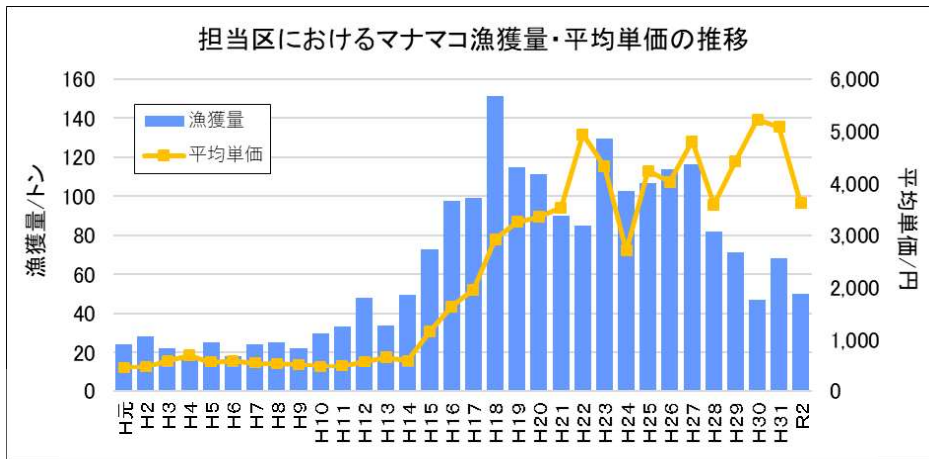


図1 担当区における漁獲量・平均単価の推移



図2 雌雄判別の技術指導

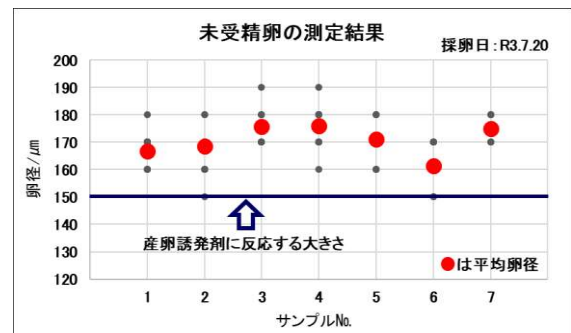


図3 成熟度調査(小樽市漁業協同組合)



図4 地区独自の採苗状況

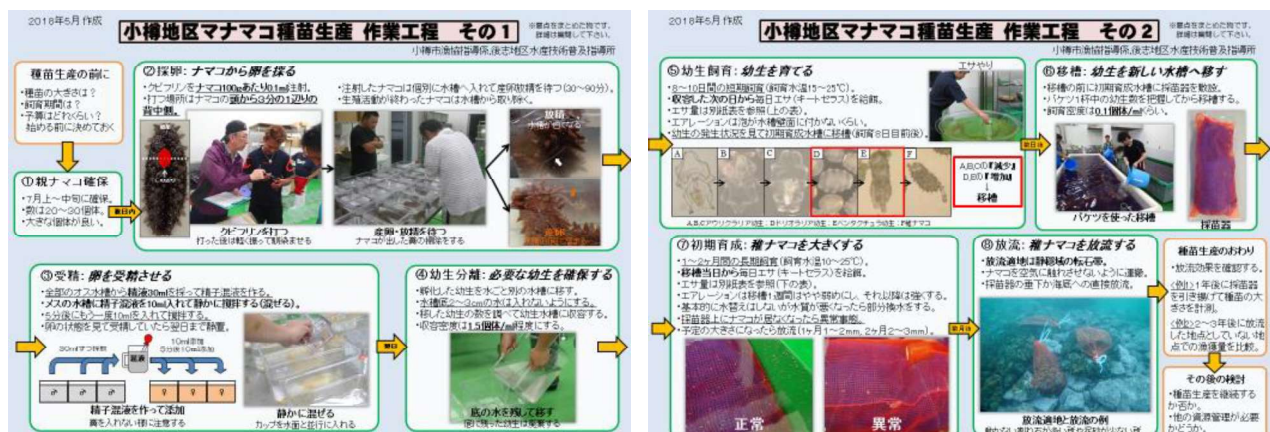


図5 小樽地区マナモコ種苗生産作業工程表(その1, その2)